

さいたま赤十字病院 放射線科

最新型のCTを導入しました



導入したCT

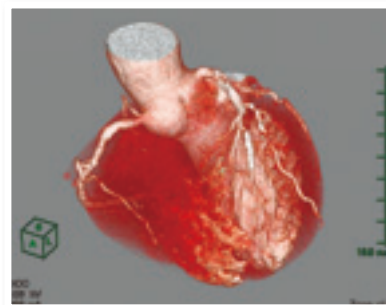
このたび、さいたま赤十字病院放射線科では、12年間使用した4列型マルチスライスCT撮影装置に代わり、PHILIPS社製のBrilliance iCT TVI Edition 256列型の検出器を搭載した最新型マルチスライスCT

に更新しました。この装置は2008年に開発された装置ですが、新しい技術を搭載した最新バージョンとなった国内2号機です。今回の設置にあたっては、装置がかなり大型化したため、搬入路ドアの一部解体が必要となるなど、大がかりな工事が必要となりました。当院では2006年には既にマルチスライスCTを3台(4列機2台、64列機1台)導入し、診療にあたっていましたが、近年、増加の一途にある心臓検査をはじめとした3D画像処理を必要とする検査が、64列機だけに集中してしまい、予約待機期間の延長化や、各診療科の要望等、迅速な対応をすることが困難となっておりました。今回の導入に伴い、これらの検査を2台で対応できるようになり、業務の効率アップに期待がもてるようになりました。

まず、新型装置の新しい技術のひとつとして、逐次近似を応用した新しい画像再構成技術があります。元々は画像のノイズを減らし、より正確な画像を得ようとする技術として開発されたものですが、これを利用することにより、線量を下げたために生じる画像のノイズを減らすことにより、低被ばくでの検査を実現できるようになりました。もちろん従来からも、放射線専門医の指導の下、可能な限り線量低減を図ってまいりましたが、今回導入したこの装置は、従来機のおよそ半分の線量で検査を行うことが可能です。

そしてもうひとつ、O-MARと呼ばれる、体内金属(人工関節等)の影響で生じるアーチファクトを低減する技術も搭載されており、日々の診療に大変役に立っています。

また、当院は日本X線CT専門技師認定機構による認定技師を3名擁し、被ばく低減はもちろんのこと、患者さんに安全にCT検査を受けて頂けるよう、装置の精度管理なども日々積極的に行っています。



心臓のCT画像

小川赤十字病院 精神科 デイケアセンターソレイユ

餅つき大会を実施しました

小川赤十字病院精神科デイケアセンターソレイユでは、1月10日(木)に餅つき大会を開催しました。当日は1月にしてはポカポカとした気候となり、晴天に恵まれました。参加者も順番に餅をつき、皆で臼を覗き込んで「伸びて来たぞ!」「米粒が無くなってきた!」などと感想を言い合い、餅がつきあがると「おおおお〜」と歓声があがり盛り上がりました。例年のようにバイキング形式であんころ、きな粉、からみ、納豆キムチ、黒ゴマ、みたらしを各自の好みに合わせて盛り付け、さらに雑煮に大福、そして今年は赤飯

作りにも初挑戦し、赤飯おにぎりも加わり、色々な味を楽しむことができました。午後はビデオ鑑賞で懐かしい「大魔神」(すごい反響でした!!)を見ながらお腹を休めました。参加者の協力のもと、一つの行事が終わるとホッとするとともに、また一つソレイユの思い出ができたことを嬉しく思います。



大きな歓声があがった餅つき